

1. 学校名 対象 (学年、人数)

信州大学教育学部附属長野中学校 (1 学年・201 名)

2. 探究課題・活動実践の概要、ねらい、目標等

(1) 活動テーマ

持続可能な社会の実現に向けて

(2) 目 標

○現代社会における諸問題に関する調査を通して、持続可能な社会の実現には、人々の生活や地域の特徴と深く関わっていることを理解する。

○持続可能な社会を実現するための問題を、自己との関わりで捉える。

(3) ESD の視点、育成する資質・能力

①構成概念

- 多様性 (多種多様な現象が起きていること)
- 相互性 (関わりあっている)
- 有限性 (限りがある)
- その他 ()
- 公平性 (一人ひとりを大切に)
- 連携性 (互いに連携・協力すること)
- 責任制 (責任を持って)

②育成する資質・能力

- 批判的に考える力
- 未来像を予測して計画を立てる力
- 多面的・総合的に考える力
- コミュニケーションを行う力
- 他者と協力する力
- つながりを尊重する態度
- 進んで参加する態度

(4) 関連する SDGs



9 産業と技術革新の基盤を作ろう
11 住み続けられるまちづくりを
12 つくる責任、つかう責任

(5) 探究課題・活動実践の概要

「持続可能な社会の実現に向けて」をテーマに、提示された5つのミッションの中から、生徒一人ひとりが興味のあるものを選び、「実践すること」を大切に活動に取り組みました。

全体のテーマ	「持続可能な社会の実現に向けて」
FNC (附属長野中) プロジェクト	「学校をよりよい場所にしよう」をテーマに、空間づくりの視点を中心にしながら、自分たちにできることを考える。(廃材等を使ったベンチづくり・花壇・芝生でコンサート等)
ふるさと CM プロジェクト	地域の魅力を発信する CM を作りながら、地域の課題やよさを発見し、発信していく。
農業・農作物から未来を考える	長野県農業大学校とのコラボ。農作物や食料の視点から、食品ロス等の現在の課題に対して自分たちにできることを考える。(商品開発も視野に)
非常時に自分は何ができるのか	避難所運営ゲームを体験し、実際に災害が起きた時のことを調べたり、想定したりしながら「非常時に自分は何ができるのか」考える。
繊維から未来を考える	信州大学繊維学部とのコラボ。繊維の視点から、サステナブルな衣服や未来につながる繊維の活用などについて知り、自分たちにできることを考える。

3. 流れ (指導計画の概略)

- (1) オリエンテーションを行い、学習のねらいや5つのミッションについて知る。
- (2) 希望のミッションごとに分かれ、それぞれの切り口から自分の問いを立てる。(例: 繊維から未来を考える「食品ロスを繊維の技術を使って解消できないだろうか」)
- (3) テーマに関わる知識を増やしたり、地域の企業や団体の取り組みを調べたりする。インタビュー活動や調査活動を通して、自分たちにできそうなことを考える。

(4) 自分たちで考えた活動を実践する。

4. 効果・反応・所感

生徒は、それぞれがテーマに関わる自分の問いをもって追究を行い、見つけた課題から自分たちが今できることは何か SDGs の 17 の目標に沿って考え、実践することができた。例えば、繊維と未来との関わりについて調べ始めた生徒は、衣服の大量廃棄が課題になっていることを知り、廃棄される衣服を活用できないかと考えた。自分たちのできることは、古着を回収しワクチンに変えている団体に寄付することであると決め出し、全校や保護者の皆様に古着回収への協力をお願いして、団体に送付することができた。

5. 指導方法・体制の工夫（協力者や資源）

【協力施設】○長野県農業大学校 ○信州大学繊維学部 ○信州環境カレッジ事務局

【協力してくださった皆様】○RERIGO 伊藤さん ○ECOMACO 酒井さん ○JA ながの中央 古谷さん

○さんさんファーム 岸田さん ○中澤教頭 ○長野県林務部森林企画課 富田さん ○長野県林務部信州の木活用課 小沢さん ○長野県地域振興局林務課 黒石さん ○長野市総務部危機管理防災課 後藤さん ○渡邊さん

○ガーデンスタイルフォレスト 塚田さん ○woodcraft 383 和歌月さん